

1 座間味村そろえる実践（令和2～6年度）

座間味村教育委員会

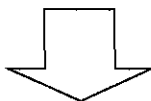
沖縄県教育庁義務教育課学力向上推進室
学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ

◎ 3つの視点

- ① 自己肯定感の高まり
- ② 学び・育ちの実感
- ③ 組織的関わり

◎ 5つの方策

- <方策①> 日常化する【質的授業改善】
- <方策②> そろえる【組織的共通実践】
- <方策③> 支える【発達の支援】
- <方策④> 見通す【学校組織マネジメント】
- <方策⑤> つなぐ【学校連携・地域連携】



座間味村内立幼小中の全教職員が共通実践すること

アンダーラインは新たな取り組み

☆思考・判断・表現

- 児童生徒が考えをまとめたり表現したりする時間の確保
- 学習のねらいの達成に向けた言語活動の設定
(一授業一思考場面の設定)

☆授業マネジメント

- 単元を見通した授業改善

☆複式形態、合同学習、集合学習、交流学习等の推進

(へき地の特性を生かした教育)

☆キャリアパスポートの活用

- 学んだことの意義や価値を実感させる取り組み

※過去3年間で、「めあて・まとめ・ふり返し」に重点を置いた授業改善は一定の成果が見られる。(全国学調、県到達度調査等) 県としては県・地区の推進する(どのようにまとめ・ふり返しを行うのか)の重点項目を受け、授業において「まとめ」を実現するための授業展開の工夫が重視されている。

本村では、「一授業一思考場面の設定」、「めあて、まとめ、ふり返りの充実」、「複式形態、合同学習、集合学習、交流学习等の推進」とすることで授業改善に取り組むたい。

※総括目標を達成するため、座間味村教職員が一丸となって取り組む実践事項である。

様式1 令和4年度版 学力向上推進「学校デザインシート」

本校のカリキュラムの特徴
小規模・小中併置校の特性を生かしたカリキュラム

学校名	座間味村立慶留間小中学校
校長名	大城 圭

学校教育目標 <input type="radio"/> 心豊かでたくましい子 <input type="radio"/> 自ら考え、進んで学ぶ子 <input type="radio"/> 健康でねばり強い子

〈本校で育成する児童生徒の資質・能力〉 <input type="radio"/> 基礎的・基本的な知識及び技能 <input type="radio"/> 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等 <input type="radio"/> 主体的に学習に取り組む態度 <input type="radio"/> 自己を調整する力

〈目指す子供の姿〉 <input type="radio"/> 夢や希望を持ち、「なりたい自分」「なれる自分」を広げることができる子 <input type="radio"/> 思いやりがあり、規則正しい生活ができ、心身共に健康な子 <input type="radio"/> 気づき、考え、行動し振り返ることができる子 <input type="radio"/> 学習の習慣が身につく、主体的に学習に取り組む子 <input type="radio"/> めあてを持ち、授業や課題に日々努力し、ねばり強く最後までやりぬく子 <input type="radio"/> 郷土を愛し、郷土に誇りを持つ子

学びの質を高める授業改善・学校改善の推進

【校内研究テーマ】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

～授業の基本型を取り入れた「問い」を持たせる学習指導の工夫～

	視点1 自己肯定感を高める	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり
自校の課題	学習に主体的に取り組み、学んだことを振り返ること	キャリアパスポートとコーチングカルテの作成・活用	P.D.C.Aサイクルの確立と対話的な活動の推進
方策1 日常化する <small>【質的授業改善】</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」「問いが生まれる授業」の実現を目指した授業改善 ・不断の児童生徒理解と学びの保障 		
方策2 そろえる <small>【組織的共通実践】</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基盤となる「ゲルマっ子学習のステップ」の推進（児童生徒によるPDCA運用） ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、確実な指導と評価 		
方策3 支える <small>【発達の支援】</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの活用 ・自己調整力を高めるコーチングカルテの活用 		
方策4 見通す <small>【学校組織マネジメント】</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAマネジメントサイクルを基盤にした教育経営デザイン ・グランドデザインの共有と実践 		
方策5 つなぐ <small>【学校連携・地域連携】</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等への積極的な参加 ・地域人材や各教育関係機関等を活用した多様な学習活動 		
診断重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が好きになり、やってみたくなったか。 ・わかる・できる・やる喜びを感じているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標を持ち、自己の成長を実感しているか。 ・自ら課題を見つけ解決しようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAマネジメントが確立しているか。 ・「単元指導」マネジメントが確立しているか。 ・対話的な活動が推進されたか。

様式2

令和4年度版 学力向上推進フォーカスシート

～学力向上マネジメントを機能させるために～

学校名	座間味村立慶留間小中学校
校長名	大城 圭

本校で育成する資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識及び技能 ○ 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等 ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○ 自己を調整する力
校内研究テーマ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～授業の基本型を取り入れた「問い」を持たせる学習指導の工夫

	自校の課題	重点方策	診断重点項目	評価方法／結果	改善策
【視点1】 自己肯定感の高まり	学習に主体的に取り組む、学んだことを振り返ること	方策1 ・「主体的・対話的で深い学び」「問いが生まれる授業」の実現を目指した授業改善 ・不断の児童生徒理解と学びの保障	・授業が好きになり、やってみたくなったか。 ・わかる・できる・やる喜びを感じているか。	児童生徒による学校評価 A…3.4以上 B…3.0以上	
				評価	
【視点2】 学び・育ちの実感	キャリアパスポートとコーチングカルテの作成・活用	方策3 ・キャリアパスポートの活用 ・自己調整力を高める コーチングカルテの活用	・夢や目標を持ち、自己の成長を実感しているか。 ・自ら課題を見つけ解決しようとしているか。	児童生徒による学校評価 A…3.4以上 B…3.0以上	
				評価	
【視点3】 組織的な関わり	PDCAサイクルの確立と対話的な活動の推進	方策2 ・学習の基盤となる「ゲルマっ子学習のステップ」の推進（児童生徒によるPDCA運用） ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、確実な指導と評価	・PDCAマネジメントが確立しているか ・「単元指導」マネジメントが確立しているか。 ・対話的な活動が推進されたか。	職員による学校評価 A…3.4以上 B…3.0以上	
				評価	

段階 5つの方策		【学びの質を高める授業改善・学校改善】			
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
授 業 改 善 学 校 改 善	【方策1】 日常化する 質的授業改善	(1) 「主体的・対話的で深い学び」「問いが生まれる授業」に対する教員間の共通理解が弱い。 (2) 授業を核とした生徒指導への認識が十分でないため、教師主導の一方的な授業展開が多くみられる。	(1) 「主体的・対話的で深い学び」「問いが生まれる授業」をめざし、単元を見通した授業改善を推進する体制が整いつつある。 (2) 授業を核とした生徒指導の認識のもと児童生徒の学びの姿を捉えながら授業を改善する教師が増えてきている。	(1) 「主体的・対話的で深い学び」「問いが生まれる授業」をめざし、単元を見通した授業改善を推進するためにPDCA体制が推進されている。 (2) 授業を核とした生徒指導の認識のもと児童生徒の学びの姿を捉えながら改善点を見だし、組織的、日常的な質的授業改善が推進されている。	(1) 「主体的・対話的で深い学び」「問いが生まれる授業」をめざしたPDCA体制が展開され、児童生徒の自己肯定感を高める関わりが、日常的に行われている。 (2) 授業を核とした生徒指導の認識のもと児童生徒の学びの姿を捉えながら改善点を見だし、児童生徒の学びの保障が日常的に行われている。
	【方策2】 そろえる 組織的共通実践	(1) 「ゲルマっ子学習ステップ」における実践項目の共通理解が弱く、学習の基盤となる資質・能力の育成の実践にばらつきがある。 (2) 指導と評価の一体化にほど遠い。	(1) 「ゲルマっ子学習ステップ」に取り組んでいるが、形式的な指導にとどまっておき、意図的・計画的な指導に課題がみられる。 (2) 指導と評価の一体化を意識して実践する教師が増えてきた。	(1) 「ゲルマっ子学習ステップ」を踏まえ、全職員による共通実践が推進され、主体的に学ぶ児童生徒の姿がみられる。 (2) 確実な指導と評価により、単元や内容のまとまりを見通し学習の目標に向かう授業実践が見られる。	(1) 「ゲルマっ子学習ステップ」を踏まえた共通実践が確実に定着し、児童生徒の主体的な学びが日常的に行われている。 (2) 全職員による指導と評価の取組が日常的に行われ、「実践→評価→改善」のサイクルで体系的・継続的な指導が着実に展開されている。
	【方策3】 支える 発達の支援	【安心】 児童生徒が安心して学校生活を過ごせるように、規範意識を醸成し、さまじりの意義や価値を実感できるように取り組んでいる。 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	【所属】 安心できる集団の中で、相互に認め合い、他者へ貢献したり、他者と協働して何かをやり遂げる機会や、自治的な活動が展開できる環境を意図的にしかけ、主体性や協働性を育むよう絆づくりに取り組んでいる。 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	【承認】 授業中や様々な活動の場面で、一人一人の努力や成長、貢献を丁寧に見取り、具体的に承認、勇気づけのメッセージを伝え、教師、児童生徒相互、保護者等から多様な形で承認を得られるよう工夫し取り組んでいる。 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	【自立】 承認を通して気付いた自分のよさや可能性をもとに、将来の夢や希望、そのための具体的な目標を設定することで目的意識を育み、日々の教育活動において「めあて」「振り返り」を行い自身の成長を実感できるように支援に取り組んでいる。 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
	方策3は<レベル>ではなく<支持的風土づくりの4つのポイント>を示している。	1：課題が多く取組が弱い 2：取組が弱い 3：取組が充実してきている 4：とても取組が充実している			
	【方策4】 見通す 学校組織 マネジメント	グランドデザインに対する理解が弱く、PDCAマネジメントサイクルの組織的取組にばらつきがある。	グランドデザインに対する共通理解がみられ、PDCAマネジメントサイクルを職員間で共有し、組織的に推進できる校内研究体制は整いつつあるが、取組の効果はまだ十分ではない。	グランドデザイン達成に向けた共通理解が図られ、PDCAマネジメントサイクルによる校内研究体制が整い、特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実が図られつつある。	グランドデザインのPDCAマネジメントサイクルが確立し、持続可能な組織的カリキュラム・マネジメントが着実に進展している。
【方策5】 つなぐ 学校連携・地域連携	子供の学び・育ちを支援するための連携体制が十分ではない。	子供の学び・育ちを支援する連携体制は整ってきたが、取組の効果は十分ではない。	子供の学び・育ちを系統的・継続的に支援する連携体制が整い、取組の効果が表れてきている。	子供の学び・育ちの系統的・継続的な支援体制が整い、その成果を踏まえて「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組が推進されている。	

こんな場面では・・・		小学校					中学校			
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
授業前 授 業 中 家 庭 学 習 そ の 他	休み時間(学習前)	次の時間の準備をする(トイレ・水飲み含む)。机の上には教科書・ノート・筆記用具をそろえる。								
	机の上	教科書・ノート・筆記用具 机の上には必要なものだけを置き、整理整頓する。								
	授業のはじめ	2分前に着席し、1分前黙想する。黙想はイスに深く座り、背筋を伸ばして行う。								
	授業はじめのあいさつ	これから○校時の授業・学習を始めます。ウニゲーサピラ								
	授業おわりのあいさつ	これで○校時の授業・学習を終わります。ニフェーデービタン								
	座る姿勢	両足は床にしっかりつけ、背筋を伸ばして座る。								
	立つ姿勢	背筋をのばして立つ。								
	発表するとき	手をまっすぐあげる。 他の人が指名されたら、手をおろす。		すすんで、挙手をする。他の人の発表が終わってから、挙手する。						
	話すとき	大きな声ではっきり話す		声の大きさ・早さに気をつけて話す		要点をおさえてわかりやすく話す		根拠をもとに自分の考えを筋道を立てて話す		
		聞き手に聞こえるような声で、言葉遣いに気をつけて、最後まできちんと話す。								
	聞くとき	最後まで話を聞く		自分の考えと比べながら聞く		話し手の気持ちを考えながら、自分の考え意見と比較する				
		話している人に体を向け、すすんで聞こうという気持ちを持つ。(うなずいたり返事をしたりする)								
	書くとき	枠や行の中にていねいに書く				速くきれいに書く				
		正しい鉛筆の握り方、正しい姿勢で筆順に気をつけて書く。(線を引くときは定規を使う)								
	めやすの時間	20分		45分		60分		70分(120分) 80分(120分) 90分(120分)		
ねらい	鉛筆を正しく持ちていねいに書く。 明日の準備をする。		決まった時間に家庭学習をする。 辞書など使うようにする。		自分で計画を立てて学習する。 好きな教科だけでなく苦手な教科にも取り組む。		自分で計画を立てて部活と両立する。 教科に適した学習の方法を工夫する。 得意教科を伸ばし、苦手教科を克服する。			
内容(例)	・宿題 ・チャレンジノートを活用する									
	・音読 ・プリント ・読書(絵本)		・音読 ・プリント ・ドリル(計算、漢字) ・47都道府県調べ ・新出漢字練習(書き順、熟語) ・慣用句 ・四字熟語 ・テスト等の見直し ・教科書の補充問題 ・新聞記事を読む(要約、感想書き) ・リレーノート				・その日の学習内容の復習 ・次の学習内容の予習 ・各教科の課題 ・考査見直し ・リレーノート			
作文の書き方(例)	その日の出来事、授業の振り返りなど、いつ・どこで・誰が・何をした・感想等を書く		その日の出来事、授業の振り返りなどを、低学年の内容に加えて、ますの使い方や書き言葉と話し言葉の使い分けなどに気をつけて書く				自分の考えを示し、その理由(根拠)を相手に分かりやすく伝える			
共通実践	宿題から先に済ませる。テストや考査等の間違い直しは必ずやる。毎日決まった時間に学習する。チャレンジノートには、お家の人のサインをもらう。									
各検定の目標 トリプルアップ (中3はトリプル3+ONE) 各種大会へのチャレンジ	・漢字検定 10級		・英語検定 5級~		・英語検定 5級~		・英語検定 5級 4級 3級			
	・算数検定 11級 10級		・漢字検定 9級 8級		・漢字検定 7級 6級		・漢字検定 5級 4級 3級			
			・算数検定 9級 8級		・算数検定 7級 6級		・数学検定 5級 4級 3級			

2 令和4年度 学力向上年間サイクル

年間プロセス	学校の取組～年3回の全体的学力調査(6、11、2月)の実施～	校内研・学校行事等との関連
1月	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold; margin-right: 5px;">R・P・D・C・A 1回目</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">レディネスを揃える取組</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●年度末の取組・県学力到達度調査へ向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの宿題点検 ・諸調査問題等の活用(課題のあった問題) ・当該学年の既習事項の定着の確認と補充的指導 □県学力到達度調査の実施(小中) <ul style="list-style-type: none"> ・結果分析の共有 ・授業改善ポイントの共有と実践(課題のあった問題) ・教科年間指導計画の見直し(時数配分等) ・コーチングカルテのまとめ <p style="text-align: center;">→次年度に向けた学校課題の把握</p>	学力向上強化月間(1～3月) 【学習ステップアップ月間】
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲルマっ子自己調整シートの活用
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進と連動した校内研修計画の作成 ・村学力向上推進実践資料共有
春期休業	<ul style="list-style-type: none"> ●春休み期間中 <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提供・必要に応じて、補習指導の実施 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●年度始めの支持的風土を作る学級経営を中核とした取組 <ul style="list-style-type: none"> ・春休みの宿題点検・学習規律の徹底 ・既習事項の定着の確認と強化・コーチングカルテの確認 □5月 全国学力・学習状況調査実施 (自校採点・入力・コーチングカルテに記入) □5月 標準学力調査(小3～中2) 	学力向上強化月間(4月) 【学習規律強化月間】
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●諸学力調査結果の活用・6月の県学力定着状況調査へ向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・成果・課題の把握・結果分析の共有、課題解決への取組 ・授業改善ポイントの共有と実践(課題のあった問題) ・教科年間指導計画の見直し(時数配分等) □県学力定着状況調査の実施と活用(自校採点・入力) 	◇年度初めの支持的風土をつくる学年・学級経営を中核とした取り組み
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●全国学力・学習状況調査結果(文科省公表予定) <ul style="list-style-type: none"> ・客観的な分析、改善策の再検討 ・コーチングカルテに記入し、個への支援を行う <p style="text-align: center;">◇学校評価(1回目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学推・校内研の計画・提案・報告 ・問いサポ、授業デザインマップの活用 ・授業プランシート・単元プランシート ◇修養分野① ◇公開授業①② ◇研究授業①
7月		
夏季休業	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休み期間中 <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提供・必要に応じて、補習指導の実施 ・教育課程の点検・見直し(指導計画、時数配分、週時程等) 	
8月下旬	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold; margin-right: 5px;">R・P・D・C・A 2回目</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">レディネスをそろえる取組</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●夏休み明けの取組 <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題点検 ・既習事項の定着の確認と強化 ●諸調査結果の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・成果・課題の把握・結果分析の共有、課題解決への取組 ・授業改善ポイントの共有と実践(課題のあった問題) ・次年度教科年間指導計画の検討(時数配分等) ●県学力定着状況調査へ向けた取組・模擬テスト(中3)の実施 □県学力定着状況調査の実施と活用(自校採点・入力) <ul style="list-style-type: none"> ・成果・課題の把握・結果分析の共有、課題解決への取組 ・授業改善ポイントの共有と実践(課題のあった問題) ・次年度教科年間指導計画の検討(時数配分等) ●年度後半の取組(まとめの学習) <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着の確認と強化 ・コーチングカルテに記入し、個への支援を行う <p style="text-align: center;">◇学校評価(2回目)</p>	学力向上強化月間(9月) 【学習”やる気”アップ月間】
9月		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ◇研究授業②③ ◇主事要請授業①②
10月		<ul style="list-style-type: none"> ◇修養分野② ・学習発表会
11月 12月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">成果と課題まとめ</div>
冬期休業	<ul style="list-style-type: none"> ●冬休み期間中 <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提供 	
1月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">レディネスをそろえる取組</div> <p>※上記同様の取組</p>	学力向上強化月間(1～3月) 【学習ステップアップ月間】